

あつま復興未来会議 復旧・復興計画町民ワークショップ 実施報告

町民を対象とし、「あつま復興未来会議」として自由参加形式のワークショップを実施した。本項では、ワークショップの概要と、求められる施策について示す。なお、ワークショップ結果詳細については次項に示す。

【町民ワークショップの実施概要】

対 象 : 厚真町民

参加方法 : 自由参加

日 程 : ①8/24,②11/16,③11/30

延べ参加者数 : 59 名

① 開催概要

本ワークショップでは、全3回を通じて、町の復旧・復興に向けて重要な視点や、必要な施策について町民意向を抽出することを目的とし、下表の内容について班別で討議した。

町民ワークショップ（全3回）の内容

内容		参加人数
第1回	◆2025年のあつまの姿を考えよう 「被災から1年がたとうとしている今、思うこと」 『避けたい未来』『みんなで力を合わせれば出来る良い未来』は何か？ 「あつま復興のキーワードは何か？」	23名
第2回	◆町の資源と課題を整理しよう 「厚真の宝、心配ごとは何か？」	20名
第3回	◆厚真町に必要な取り組みを考えよう 「これから必要な取り組みは何か？」「アイディアリストを作ろう」	16名

② 主な意見

全3回のワークショップにおいて発言された意見について、テーマ別に意見数をカウントした（下表参照）。最も多く話題となったテーマは『町内のつながりづくり』、次いで『町民参加の復興』『町外との交流』となっており、本ワークショップではこれらのテーマについて特に関心が高かったことが分かる。

町民ワークショップ（全3回）における意見の概要

テーマ	意見数	テーマ	意見数
町内のつながりづくり	73	心身の健康	15
町民参加の復興	55	生活再建	15
町外との交流	35	田園風景や自然の保全	10
地域の誇り・郷土愛	22	被災体験の継承	9
今後の災害対策	21	地域交通	6
子ども・子育て・教育	20	その他	67

※ 表中のテーマは分類のために任意で設定したもの。意見数は付箋や書き込みの数を計上している。

各テーマに関する主な意見は下記のとおりである。

①「町内のつながりづくり」に関する主な意見

- ・被災によって人間関係がぎくしゃくした
- ・世代や活動分野を超えた交流がしたい
- ・資源と資源、人と人をつなげる場所やコーディネーターが必要 など

②「町民参加の復興」に関する主な意見

- ・自分もボランティアをしてみたい
- ・将来、「皆で厚真を作ったよ」と言いたい
- ・地元発信で復旧・復興に関するイベントが出来たら良い など

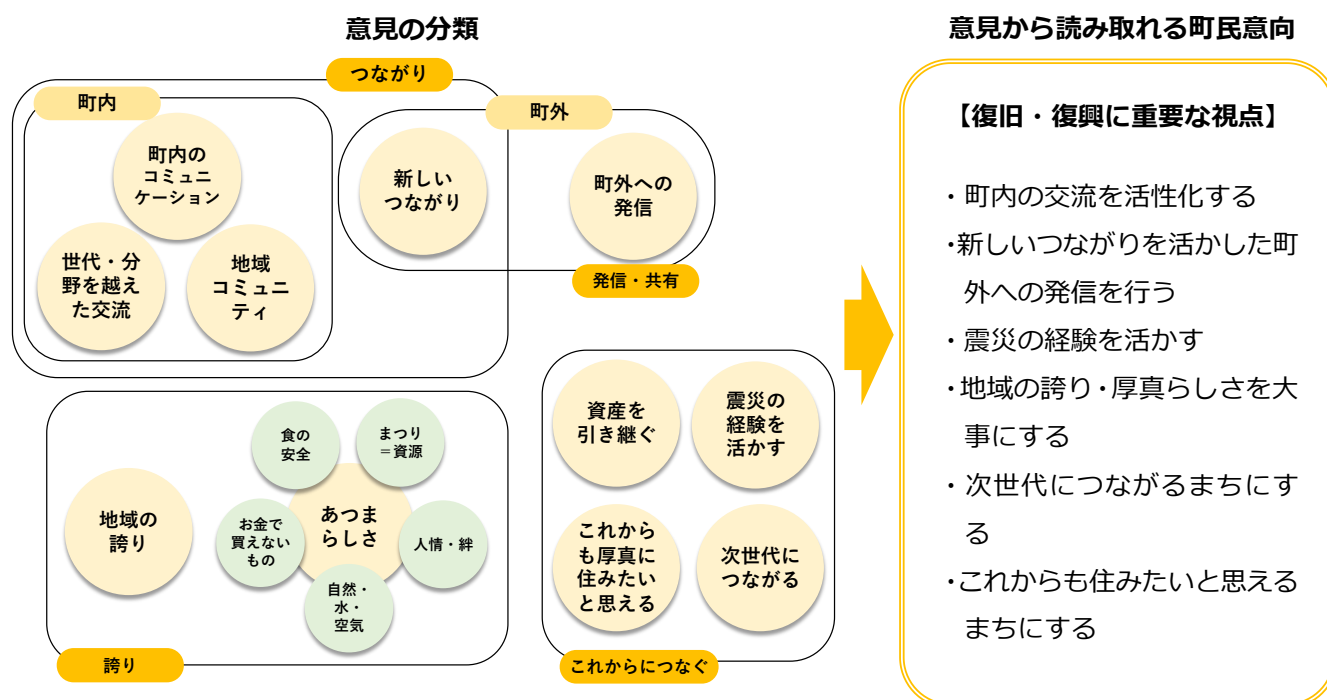
③「町外との交流」に関する主な意見

- ・外部からの人が多く訪れている。厚真町のことを知りたがっている
- ・自然や景色、食、産業、人など厚真の魅力を発信しATSUMA LOVERSを増やす など

③「あつま復興のキーワード」(第1回成果)の分析

第1回町民ワークショップでは、「あつま復興のキーワード」を班別にまとめた。それぞれの班で出たキーワードを分類すると、町の復旧・復興に向けて、「町内の交流を活性化すること」「新しいつながりを活かし町外に発信すること」「震災の経験を活かすこと」「地域の誇りや厚真らしさを大事にすること」「次世代につながるまちにすること」「これからも住みたいと思えるまちにすること」が重要な視点であると読み取れる。これらの考え方を踏まえて、各施策を整理することが必要と思われる。

「あつま復興のキーワード」として提案された意見の分析



④ 取り組みアイデア（第3回成果）の分析

第3回町民ワークショップでは、今後必要な取り組みについて、12のアイデアが出た。これらのアイデアのうち、主なものを下記に示す。

これからの厚真町に必要な取り組み（抜粋）

タイトル	概要	主体
ベンチでつくるパブリック	町民が自分たちでベンチを作り、置く。厚真じゅうのいろいろなところに手軽なコミュニティを作る。	町民
小さなあつまる場所からはじめる	お茶会、ボランティア活動、地域のお祭り、コミュニティスペースの活用、難病を抱える人たちが集まれる場など、もともとあった子どもから大人までが参加するイベントを続けたり、さらに盛り上げたりする取り組み。	協働
「つたえる」「つながる」プロジェクト	シンポジウム、町内会、井戸端会議、家族会議など、時・場・人に合わせて教訓を伝える取り組みを実施する。地震だけではなく、防災全般に対して高い意識を持った町や、日頃から顔の見えるコミュニティづくりを目指す。	協働

各アイデアを実施する際の取り組み主体を「行政」「協働」「町民」の3つから提案者において選択したところ、「行政」が主導で行うものが0件、「協働」で取り組むものが9件、「町民」が主導で行うものが3件となった。

このことから、復興のプロセスへの町民の参加や、協働による取り組みの実施について、関心や意欲が高まっていると考えられる。

⑤ ワークショップの内容からみる、求められる取り組み

ワークショップの内容から、以下の取り組みが求められていると考えられる。

- 町外との交流や、今後の災害対策の充実に関する取り組みが求められている。
- 町内のつながりづくりに関する取り組みや、町内の人と人をつなぐ場所やコーディネーターが求められている。
- 『町民参加』への関心の高さや、「地域の誇り」、「あつまらしさ」というキーワードから、町民参加による復興や地域に対する町民の誇り（シビックプライド）の醸成に関する取り組みが求められている。

1) 第1回の開催内容

①開催概要

厚真町復旧・復興計画町民ワークショップ 「第1回 あつま復興未来会議」

日 時 : 2019年8月24日(土) 16:00 ~ 18:30

場 所 : 総合ケアセンターゆくり 介護学習室

参加者数 : 23名(事前登録制、当日来場者含む)

1. あいさつ

- ・主催者である厚真町まちづくり推進課より挨拶を申し上げました。

2. オリエンテーション

- ・復旧・復興計画の策定概要や、会議の趣旨を説明しました。

3. あつま復興未来会議

●第1部 復興まちづくり講演「中越大震災の知恵～自分たちでつくる等身大の復興に向けて～」

話し手：長岡技術科学大学 上村靖司 氏 コーディネーター：東北大学 定池祐季 氏

●第2部 町民ワークショップ「あつまの未来を考えよう」

- ・ワークショップは4班(ハスカップ班、三本引き班、お米班、サーフィン班)に分かれて実施しました。
- ・「被災から1年が経とうとしている今、思うこと」を踏まえて、「2025年のあつまの姿」をテーマに未来の厚真について話し合いました。未来の厚真については、「こうなりたくない」と思う【避けたい未来】、「こうなりたい」と思える【みんなで力を合わせればできる、良い未来】の2つを検討しました。最後に、「あつま復興」のためのキーワードを考えました。

4. ゲストからのコメント

●定池祐季氏より

「こうしたい未来」のアイディアが多く、願いを持っている方が多いことを感じた。「津波」など将来の災害に対する視点が出た班もあった。「今日来てよかった」「お友達が増えてよかった」という声が聞け、これだけでも良かったと感じる。ぜひ次回会議には、お友達をお誘いして来てほしい。

●上村靖司氏より

期待以上の議論だった。「被災地責任」という言葉がある。義援金や支援物資などを、もらった人に直接返せない代わりに、「支援を次の被災地に送れ」ということだが、もう一つの意味として「この厚真が被災前より良くなって持続している」という状態にすることも責任だと思った。復興のプロセスにぜひ多くの方に参加してほしい。次回の会議に出られないとしても、皆さんそれぞれのコミュニティにこの議論を持ち帰り、「こんな話をしてきた」ということを伝え、話し合いをしてほしい。

5. 閉会

- ・次回は10月中目途に開催予定

②第2部 町民ワークショップ「あつまの未来を考えよう」での各班の検討結果

※参加者の意見については、当日参加者に付箋で記入頂いた原文のままを基本に、一部語尾等を補足して掲載しています。

ハスカップ班

●話し合いの概要

- ・地元で仕事をしている方と厚真が好きで移住された方の班でした。
- ・「つながり」を探していた人と、「つながり」を作るためのコミュニティスペースを作ろうとしている人が出会い、一緒に何か考えられないか、というお話が出来ました。
- ・復興を考えると大事にしたいキーワードは「人とのつながり」「地域の誇り」「厚真らしさ」という言葉が出ました。

●参加者の意見

今、思うこと

<不安>

- ・この町で年を取って生活して行けるのか不安な事ばかり。厚真の方々の性格が良く見えない。怖いと思う時がある。
- ・厚真はこのままで大丈夫かなあ？
- ・マイナスな気持ちにならないか心配
- ・地震後の方が恐怖心が強くなっている。
- ・人との交流がなくて不安が増えている。涙が出てしまう。
- ・今回の地震は人災ではないかなーと思う時がある。地震の4日前の台風の時の事を思うと、そのように思えてくる。あの台風で山がくずれた！その後の地震なので、あの山の災害は人災ではないかー！
- ・壊れた家の相談ができない。

<周囲の人とのつながり>

- ・新しいつながりをつくりたい。
 - ・厚真町は呼んでくれたが…移住者は孤独。高齢者が多い。周りとのつながりが欲しい。⇒いま、サロンをつくりたいと思っている。
 - ・町内外の人達と交流出来る場所が必要⇒いま、集まれる場所（コミュニティスペース）をつくっている。ぜひ来てほしい。
- ⇒「すでに取り組みを始めている人」と「やりたいと思っている人」で、何か一緒に考えられるだろうか。まずは、今つくっているところに行ってみよう。

<震災後の変わったこと>

- ・外部からの人が多く訪れている。みんなが厚真町のことを知りたがっている。応援してくれている。
- ・被災の激しい人とそうでない人との温度差が気になる。
- ・厚真の知名度はあがったなあ。
- ・本当にいろんな人が助けてくれているなあ。
- ・厚真は意外と大丈夫そう！
- ・震災後に変わったことは、防災の意識

<震災後の変わらないこと>

- ・子どもは大切な存在
- ・前と変わらない人の心。
- ・前と変わらない町の姿。

<防災>

- ・厚真の震災を他の町、人にも、防災面などで活かしてほしい。

避けたい未来	こうなってほしい未来
・ 交通を理由に住めなくなること。車が運転できなくなると、出ていかなくてはならない。 ・ 田舎の良さがなくなる。 ・ 知らない人が多くなる。 ・ 森林や田畑が荒廃。 ・ 人がいない。人と人とのつながりがない（切れてしまう）。 ・ 転出が加速し負のスパイラル ・ 空き家だらけで孤独死が多発 ・ 地震を忘れること ・ 老人を捨てないで！	・ 誰もが顔見知り、集まる機会がある ・ 厚真に住んでて良かったね。と笑い合える、そんなつながりがある。 ・ 老人サロンを作り、そこへ来る足はめぐるくんが利用出来たら良い。 ・ 世代間交流であたたかい未来をつくる。 ・ 各地区の結束を強める、つづく、誇りある地域 ・ それぞれの分野で発展しつつ、みんな良い部分をあつめて、厚真を盛り上げる。 ・ 地域の交流、祭り・イベントがある、楽しく過ごす ・ 田舎のよさ、あつまのよさ、いろんな人と交流できる。 ・ 100年経っても変わらない厚真の自然（良さ）を残す。 ・ 厚真ならではの魅力がみがかれ、その価値を生かして交流（観光？）人口が増えている。 ・ 子どもたちが夢を描ける、実現出来る。 ・ 子どもが良さを誇りを持って語る。 ・ 優れた子育て環境を目指して移住者が増える。 ・ 車を運転できなくなったら、生活が出来なくなる町になってほしくない。今がチャンス。一番大切な足の事、交通を考える。

あつま復興のキーワード
・ <u>新しいつながり</u>をつくりたい！ ・ <u>世代を越えて分野を越えて交流</u> ・ <u>地域の誇り（文化・伝統とか）</u>をこのあとも大事にしたい！ ・ あつまらしさを考えていくこと大事！

● 検討結果の模造紙



3本引き班

●話し合いの概要

- ・厚真が好きで移住されてきた多世代の方を中心とした5人で話し合いました。
- ・住んでいる人にとって（移住者・地元住民ともに）、もっと住みやすい町になってほしい。そのためにも、震災で全国に名前が知られたチャンスを生かしてビジネスや観光などうまく情報発信していきたい。というお話しが出ました。
- ・主に町内への視点と、町外への視点の二つが話し合われ、その両方に共通するものが、地震を経験したことで得たもの（ネームバリューや、横のつながりの必要性）であるということから、図のようなまとめとなりました。

●参加者の意見

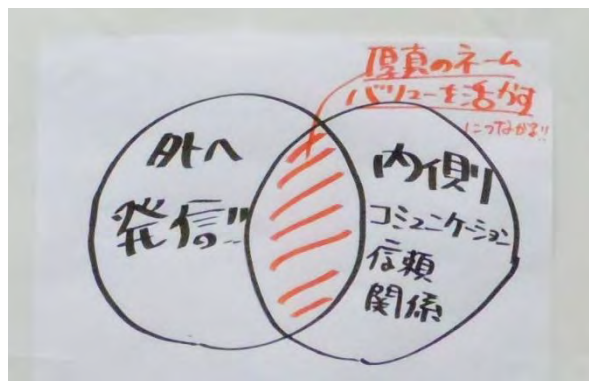
今、思うこと	
・早く畑をなおしてほしい。 ・ヤサシサがない（町の職員） ・仮設の人達と交流が出来ていない ・ボランティアをしたい（ふつうのボランティア。高校生の送迎をしたい。） ・被災して困っていることがあるけれど、声をあげられない人がいそうだ ・避難している方の今後を知りたい ・米が順調に育っていてよかった。 ・ボランティアの方が少なくなった。	・知らない人が増えた ・新しい人が誰だか分からない。 ・新しい自治会になじめるかどうか不安 ・報道が多い。 ・イベントが多いけど向こう（主催側）からの要望が多い。 ・新築の家が続々建っている。 ・多くの人が厚真町の名を知った。 ・ちょっと会話に気配りが必要（地震の話）

避けたい未来	こうなしてほしい未来
・変わらない町あつま（ヤサシサがないまま） ・復興住宅だけ孤立して、周りから見られる（あそこは復興住宅だからという色眼鏡で見られる） ・横のつながりがない町 ・厚真町がまわりの地域から孤立してしまう ・建設的な意見ではなく、不満しか出てこない。 ⇒その結果、子どもたちが帰って来たくないと思ってしまうふるさとになる。 ・地元／移住者が置き去りにされてしまう状況 ・移住者と地元の隔たりが出来る。 ・公助に頼っている町	・住民にヤサシイ町あつま ・子どもたちが地元に戻って来たいと思えるまち ・子どもたちがボランティアに興味を持ってくれる。 ・防災意識の高い町。個々人の生きる力が強い。 ・健康な町あつま ・サーフィンの町あつま ・災害にあったからこそ災害に強い安心して暮らせる町 ・福祉が充実している町。自分たちが担い手にもなる。 ・震災のネームバリューをチャンスに変えて、ビジネスにつなげる。 ・今回の事で厚真町の名が知れて、米・ハスカップは売り上げが上がる。 ・観光などで目的地になる町

(前頁の続き)

避けたい未来	こうなってほしい未来
	・老若男女大人も子どもも一緒に楽しめる場づくり ・歴史や文化を受け継ぎ発信する ・尊敬し合える人間関係 ・外国人が観光に関わり住んでいて日本（厚真）の文化を体験できるツアーを企画 ・土地の人も新しい人も一緒に面白いことが出来る町 ・地元発信で復旧・復興に向けたイベントなどが出来る

あつま復興のキーワード



一つは町の課題はたくさんある中で誰かが孤立するのではなく、コミュニケーションを増やして、自分たちでできることに一歩ずつ取り組めるようになっていけるといいという町内への視点。もう一つは町外に向けてビジネスや観光などの情報発信につなげていけたらいいな！という外への視点。その両方に、震災という経験を未来に生かして行くという共通点がありました。

● 検討結果の模造紙



お米班

●話し合いの概要

- ・地元の方、移住者の方が混ざった、30代～80代の男女5名で話し合いました。
- ・「今、思うこと」では、「絆が強くなった」と感じている方もいる一方、「バラバラになった」「人間関係がぎくしゃくしている」と感じる方もいらっしゃいました。
- ・話し合いのなかで出た「これからも“厚真に住みたい”と思える町」というフレーズを、あつま復興のキーワードに選びました。

●参加者の意見

今、思うこと	
・たくさんの変化をしてほしい。 ・子どもが幸せになれるように ・お金で買えない物が厚真にある。 ・津波がこわい。 ・浜まつりがなくなった。 ・浜まつり、グレードアップして復活してほしい。 ・災害にあった人がとなりに引っ越して来た。 ・復興・復旧って進んでいるのかなあ。 ・何もなかった時と今、地震が起きて1年経つけどみんなバラバラになってきたなあ。 ・人間関係のぎくしゃく	・避難場所がない。 ・外に出ることがあまりなく知人も少なく、今回は知人ができ良かった。 ・過敏症の話は理解されないと、話す事はなかったが、聞いて下さり良かった。 ・もう1年か。 ・絆が強くなった。 ・なんだか疲れたなあ。 ・これからどうしよう？どうなっていくだろう？ ・みんな（町民）の力が必要。 ・行政だけじゃ無理。

避けたい未来	こうなってほしい未来
・厚い真心を失って欲しくない。 ・みんながバラバラになる。 ・人と人とのつながりが希薄になること。 ・“我関せず”（悲しい…） ・人が集まらない町 ・復興したよねーと言えない事は避けたい。 ・厚真の町の人に元気がない ・便利すぎる時代。Wi-fi などスマート農業もほどほどに。 ・不平不満でいっぱいダークな町。（何も生まれない～）	・統一した町づくり ・時間をたっぷり、思うことが一つ一つ実現していく事。 ・津波の避難所が出来た。 ・浜祭りで活気づいた ・皆で「厚真」をつくったよーとしたい。子ども（若者）が厚真を作っていく力をつくる。 ・若い世代がまちづくりに ・みんなで助け合い。（ご近所づきあい、自治会、コミュニティなど） ・モノはなくても人情豊か。（熱い真心♡） ・子育てには最適の町。 ・子どもも大人もお年寄りもみんな笑顔。 ・老人と子供との関わり。子育てはみんなで。 ・子どもが安心・安全な町。 ・食が安全安心 ・自然に特化した町 ・だれもが健康に暮らせるような食べ物を作る。（減農薬など） ・これからも厚真に住みたいなあと思える町

サーフィン班

●話し合いの概要

- ・30代～60代の地元出身の方、移住されてきた方に加えて、札幌大学の学生が2名参加しました。
- ・あつまの未来については、「年代や立場に関係なく、様々なコミュニティがあり楽しめるまち」や「次世代につながるまち」などのイメージが出ました。

●参加者の意見

今、思うこと	
<コミュニティ> ・外の人を介して違う新しいコミュニティができた。 ・不安（不満）を吐き出しやすくなった。 ・各々が自己主張できるようになったけど、意識がバラバラ。 ・被災した隣人に声をかけづらい。 ・地域から被災者が仮設住宅に移転しさみしい。 <住宅問題> ・住宅の再建の問題 <ルールルビレッジ> ・住宅を含めた生活の再建 <人の復興> ・人の復興が一番おくれていく	<震災が薄れてきた> ・町外・道外では風化しつつある（ダウントレンドになってしまっている） ・状況や情報の共有が必要 <みんなで復興> ・子どもの世界と大人の世界 ・立場を越えて ・これからどうしようかな？ーもっと前へー ・厚真町で復興に向けて取り組んでいることは？ ・令和を改めてどう捉えるか ・停電中にどんな気分転換などを行ったのか。 ・なりたい変化に自分になる。

避けたい未来	こうなってほしい未来
・災害に不安を抱かせる住みづらい町 ・子どもがいない町 ・人口減少 ・人口減などにより、地域から活力が弱まる ・建物ばかりが再建されて人と人がバラバラ ・トップダウンか行政任せ。ひとごとな町。 ・住民の意見が反映されていない復興。 ・つまらない厚真。チャレンジがない。移住した時の自分にとって×。 ・居場所がない。	・自助・共助・公助、バランスの取れた防災 ・子ども発信、大人まきこまれ town ・人口が増えて仕事場も増える。 ・単発的な活気（ブーム？）ではなく、細く長く上向きな町。 ・前向きに、「笑顔」で乗り越える。 ・人と接することで互いに元気になる町。 ・若い世代が前向きに生きる。 ・厚真プライドを持つ。 ・今までにない盛大なまつり。 ・子どもも大人も楽しい町 ・色々な人が行き交う空港のような町 ・今まで気づけなかった町の魅力を見つけて、それが新しい町の誇りになる。

あつま復興のキーワード

- ・資産をひきつぐ（農地や住宅地など）
- ・次世代につながる
- ・いろいろなコミュニティ
- ・年代関係ない
- ・一歩踏み出す

●検討結果の模造紙



③当日の様子



あいさつ
(まちづくり推進課課長より)



第1部復興まちづくり講演の様子
(上村靖司氏より)



第2部町民ワークショップの様子
(グループワーク)



第2部町民ワークショップの様子
(各グループでの話し合い結果の発表)



第2部町民ワークショップの様子
(各グループでの話し合い結果の発表)



ゲストからのコメント
(写真左：定池祐季氏 写真右：上村靖司氏)

④資料

◆配布資料

※参考資料として『新潟県中越大地震 復興検証報告書』（新潟県中越大地震復興検証調査会,平成27年3月）第6章を配布。

新潟県・復興計画ワーキンググループ

「第1回 あつま復興未来会議」アンケート

※頂いたご意見は、今後のプログラム改善の参考とさせていただきます。ご協力をお願い致します。

●以下の項目について、該当するもの1つに○印をつけて下さい。

問1. 復興まちづくり講演：『中越大地震の知恵 ～自分たちでつくる等身大の復興に向けて～』について
講演の内容は満足できるものでしたか。
 1. とても満足 2. まあまあ満足 3. ぶつう 4. やや不満 5. 不満
 (その理由:)

問2. 町民ワークショップ：『厚島の未来の姿を考えよう』について
ワークショップの内容は満足できるものでしたか。
 1. とても満足 2. まあまあ満足 3. ぶつう 4. やや不満 5. 不満
 (その理由:)

問3. 「第1回あつま復興未来会議」運営について
開催場所はいかがでしたか。
 1. とても満足 2. まあまあ満足 3. ぶつう 4. やや不満 5. 不満
 開始時間はいかがでしたか。
 1. 今回より早い時間が良い 2. 今回と同じくらいの時間で良い 3. 今回より遅い時間が良い
 会の開催時間の長さは適切でしたか。
 1. 長かった 2. やや長かった 3. 丁度良い 4. やや短かった 5. 短かった
 「第1回あつま復興未来会議」は総体として満足できるものでしたか。
 1. とても満足 2. まあまあ満足 3. ぶつう 4. やや不満 5. 不満

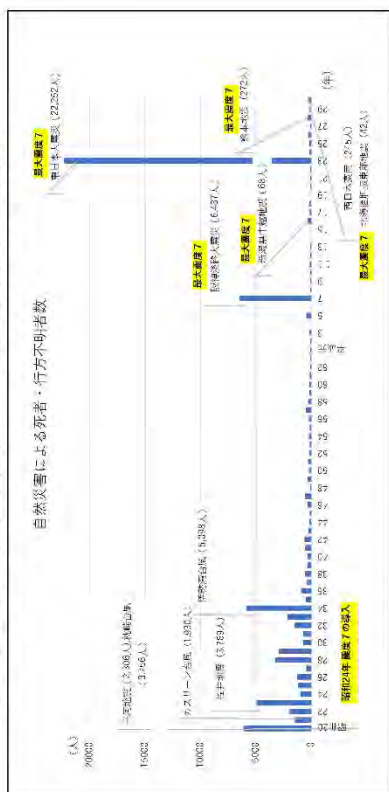
問4. 復興まちづくり講演について
今後も「災害復興」に関する講演を聞いてみたいと思いますか。
 1. 聞いてみたい 2. どちらともいえない 3. あまり興味が無い
 聞いてみたいテーマがあれば教えてください。(例：他の災害での住居再建の話を聞きたい、など)

問5. その他、ご意見やご要望、ご感想などをお聞かせください。

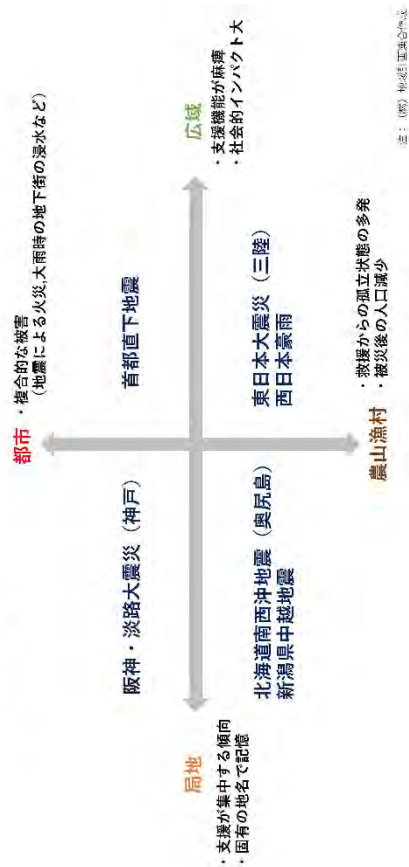
★ご協力ありがとうございました★

「胆振東部地震」はどんな災害？

① 起こった時代・時期 — 災害多発時代の災害？



② 災害の性質



◆映写資料

あつま
復興未来会議
復旧・復興計画 町長ワークショップ
8月24日(土) 16:00~18:30
総合ケアセンターゆくり介護学習室

本日の記録用として
写真・動画撮影 音声録音 をさせていただきます。ご協力をお願いいたします。
※HP等への公開をお断りも希望の方は、お近くのスタッフにお声掛けください。

この計画には、
厚真町の復旧・復興の目標や実施事業が掲載されます。

計画の内容

- ◆復興理念…どのように復興をめざすのか？
- ◆分野別の事業計画…行政が行う事業の内容や行程など
- ◆重点プロジェクト…復興をけん引するプロジェクト
- ◆被害の大きかった地区のまちづくり計画

この計画をもとに、国等への補助申請・町の予算編成などを行います。

あつま復興未来会議は全3回実施する予定です。

第1回 復興後のあつまについて
・被災から1年、思うこと
・あつまが描す「復興」のあり方の検討

第2回 分野別の検討
・各分野が目指すべき方向性・目標
・各分野でやるべきこと

第3回 分野別の検討
・町民が取り組むこと・町が取り組むことの整理
・各分野の目標の策定

3回を通じて、復興に向けて取り組むべきことや
町民・行政が一緒にできることのアイディア出しを行います。

～休憩～

サーフィン ハスカップ
三本引き お米

※ 第2回は17:05から再開します ※ 各札ウラのイラストに従ってご移動ください ※

～ 第2部 厚真の未来を考えるワークショップ ～

- 1 自己紹介 ①今日呼ばれたい名前 ②厚真の好きなところ
- 2 「今」について —被災から1年、今おもうこと
- 3 「これから」について —2025年の厚真の姿
- 4 “あつま復興のキーワード”を班でまともめ
- 5 発表

厚真町では、今年度（令和元年度）、
復旧・復興計画の策定に取り組んでいます。

計画策定のスケジュール

令和2年度

策定にあたって実施していること

- ◆被害状況の整理
- ◆復旧事業の整理
- ◆アンケートによる意見聴取
- ◆被害の甚大な地区でのヒアリングや意見交換会の開催
- ◆あつま復興未来会議の開催（本日）

計画策定には様々な機関が関わっています。

あつま復興未来会議の位置づけ

いただいた意見は、

- ①「厚真町まちづくり委員会」や「復旧・復興推進本部」に報告します。
- ②町ホームページに掲載するとともに復旧・復興計画に掲載します。
- ③事務局や庁内各課に持ち帰り、復興理念や事業計画の検討に活かします。

本日のプログラム

第1部 16:00～16:45
復興まちづくり講演会
中越大地震の知恵—自分たちでつくる、等身大の“復興”に向けて—

第2部 17:00～18:30
厚真の未来を考えるワークショップ

「ワークショップ」とは？

参加・体験型の話し合いの場
自分で意見を言ったり、誰かの意見を発展させたり皆さんも手を動かしながら話し合いを行う場です。

参加 話し合いに積極的に参加しましょう。

尊重 批判や否定をしないでよく“聴く”ことが大切です。

守秘 聞いた内容は持ち帰らず秘密を守りましょう。

参加される皆さんが安心して話し合える場をつくりましょう

被災から1年が経とうとしている今、おもっていること

どんなことでもOK！

- ・1年前と変わったこと
(例) 町外の人に「厚真町」と言うようになってきた
- ・最近気になること
(例) 被災した人みんなが安心して住宅再建できるか心配…

2025年の厚真町の姿を考えよう！



たとえば…

元の地区で住宅再建した人も、
移転した人も、安心して暮らしている

厚真の「良い所」がPRされ
「住みたい」という人が増えている



たとえば…

「ハコモノ」ばかりが出来たが
使われていない、維持費がかかる

厚真町に「地震の町」という
イメージばかりがついている

まとめ方のイメージ



検討のポイント



あなた自身・目に見える範囲の方・「地域」「厚真町」の視点を往復しながら検討しましょう

～ 発表 ～

* 18：20頃から *

～ コメント ～

* 上村先生・定池先生よりひとこと *

～ 閉会 ～

* 本日はありがとうございました *

次回のご案内
次回の開催は
10月を予定しています。
ぜひ次回もご参加をお願いします。

名札ケース・アンケートはテーブルに置いてお帰り下さい。

⑤参加者へのアンケート結果 （回収数：18票）

■問1 復興まちづくり講演について 講演の内容は満足できるものだったか

回答	回答数	割合	理由
とても満足	9	50.0%	・情報として知れた部分がたくさんありました。復興は未来へのスタートな気がします。 ・とても満足でしたが、もう少しお話を聞けたら良かったです。 ・改めて厚真町と、去年の震災の事を考えさせられたから
やや満足	7	38.9%	・一人一人の中に復興がある事を知って良かった。 ・色々な地域の事例が知れた。
ふつう	1	5.6%	・時間が足りなかったと思う
やや不満	0	0.0%	-
不満	0	0.0%	-
未回答	1	5.6%	-

■問2 町民ワークショップについて ワークショップの内容は満足できるものだったか

回答	回答数	割合	理由
とても満足	12	66.7%	・みなさんの意見が聞けた。 ・いろいろな方のお話が聞けて、参考になりました。 ・幅広い世代、あつま歴の異なる人で意見を出し合えた。 ・厚真町民の方々がいかに今後の「厚真」を考えているかが改めてわかる会議であったから
やや満足	5	27.8%	・みんな前向きなのがわかって良かった
ふつう	0	0.0%	-
やや不満	0	0.0%	-
不満	0	0.0%	-
未回答	1	5.6%	-

■問3 運営について

開催場所		
回答	回答数	割合
とても満足	9	50.0%
やや満足	8	44.4%
ふつう	1	5.6%
やや不満	0	0.0%
不満	0	0.0%
未回答	0	0.0%

開始時間		
回答	回答数	割合
今回より早い時間が良い	5	27.8%
今回と同じくらいの時間で良い	12	66.7%
今回より遅い時間が良い	0	0.0%
未回答	1	5.6%

開催時間の長さ		
回答	回答数	割合
長かった	1	5.6%
やや長かった	1	5.6%
丁度良い	16	88.9%
やや短かった	0	0.0%
短かった	0	0.0%
未回答	0	0.0%

全体の満足度		
回答	回答数	割合
とても満足	11	61.1%
やや満足	6	33.3%
ふつう	1	5.6%
やや不満	0	0.0%
不満	0	0.0%
未回答	0	0.0%

問4 今後も講演を聞きたいか また、聞きたいテーマは何か

回答	回答数	割合
聞いてみたい	17	94.4%
どちらともいえない	1	5.6%
あまり興味がない	0	0.0%
未回答	0	0.0%

聞きたいテーマ
・農業に対してのテーマ ・その他の被災地の話もききたい。 ・今回は中越地震のお話でしたが、他の地震（熊本、東日本など）のお話も聞けたら良いなと思いました。 ・「自分たちにもできるんだ！」というモチベーションにつながるお話 ・町民の参加を増やすため、異なる意見が出たときのコンセンサスのとり方 ・現実的な問題についてのテーマ

■意見・感想・要望など

・時間があれば食事会を通して話などできたら、もっともっと話ができるような気がした。
・次回が楽しみ
・厚真に住み続けたいと思うが車が乗れなくなったらどうなるか
・病院にかからない生活をしているが、やさしい家庭医がいると年よりも住みやすくなる
・町民の皆さんの思い、考えをいかに復興に生かすか。こうした機会は本当に大切だと思いました。
・（注：講演を聞いてみたいと書いたが）でもとはいえこういう多様な人の考えや意見を交流できる機会を徹底的にやってもらいたい
・山古志や台湾など震災前と震災復興後でどう変わったのかももう少し知りたかった。住民の意志と意識、外部との関係を知りたい。
・上村先生、定池先生、そしてまちづくりの皆さん（地域連合の皆さんも！）準備等お疲れさまでした。内心緊張しながらの参加でしたが、講演もワークショップも楽しく、有意義に過ごさせていただきました。どうもありがとうございました。
・地域コミュニティの向上、発展が、復興さらにはまちづくりに大きくつながっていくことを期待しています。
・今日とても楽しかったです！次回も参加します！13人連れて…
・今回の地域活動で、数えきれないくらいさまざまなことを教わった。この話し合いで自分まだまだ未熟だなと思ったし、今後、この地域活動で学んだことを生かして、将来、役に立てるように頑張りたいと思います。
・ありがとうございました。復興に向けた貴重な意見に触れることができました。
・とても緊張して、うまく自身の意見を伝えることができなかったもので、そうした事も踏まえて改めて自分の未熟さを痛感したワークショップでした。

2) 第2回の開催内容

①開催概要

厚真町復旧・復興計画町民ワークショップ 「第2回 あつま復興未来会議」

日 時 : 2019年11月16日(土) 16:00 ~ 18:30

場 所 : 総合福祉センター 青年室

参加者数 : 20名

1. あいさつ

- ・主催者である厚真町まちづくり推進課より挨拶を申し上げました。

2. オリエンテーション

- ・復旧・復興計画の策定概要や、会議の趣旨を説明しました。

3. テーマ別ワークショップ

- ・4つのテーマに分かれて話し合いを実施しました。なお、各班のテーマについては、第1回の意見に基づいて事務局で設定しました。
- ・話し合いはグループのメンバーを変えて2ラウンド行いました。終了後、全員で話し合いの内容が書かれた模造紙を見て、共感するものにシールをつけました。

○各班のテーマ

町内のつながりづくり／災害につよいまち・ひとづくり／地域の魅力発信／町民参加の復興

～ 話し合いのテーマ ～

「(班のテーマ)」に一役買いそうなあつまの宝、

「(班のテーマ)」に関する心配ごととは何か？

4. ゲストからのコメント

●定池祐季氏（厚真町防災アドバイザー）より

「宝」には、もともとあったものと、震災後に新しく出来たものの両方があった。「心配ごと」には、以前からもともとあったものが災害の時に見える化したものや、災害が起きたことで時間の流れが速まり、数十年後に課題になったであろうものが、今直面する問題になってきたもの（自治会の存続など）があった。台湾の被災地で、「ピンチはチャンス」ではなく「ピンチは opportunity（機会）」という言葉聞いた。このワークショップも、課題を見える化してお互いに気づき教え合う機会になったのかと思う。

今回、複数のグループで共通する話題があった。次回はこれに横ぐし・縦ぐしを通すように結びつけながらお話できると、より具体的な議論が出来ると思う。

5. 閉会

②検討結果

※参加者の意見については、当日参加者に付箋で記入頂いた原文のままを基本に、一部語尾等を補足して掲載しています。

テーマ：町内のつながりづくり

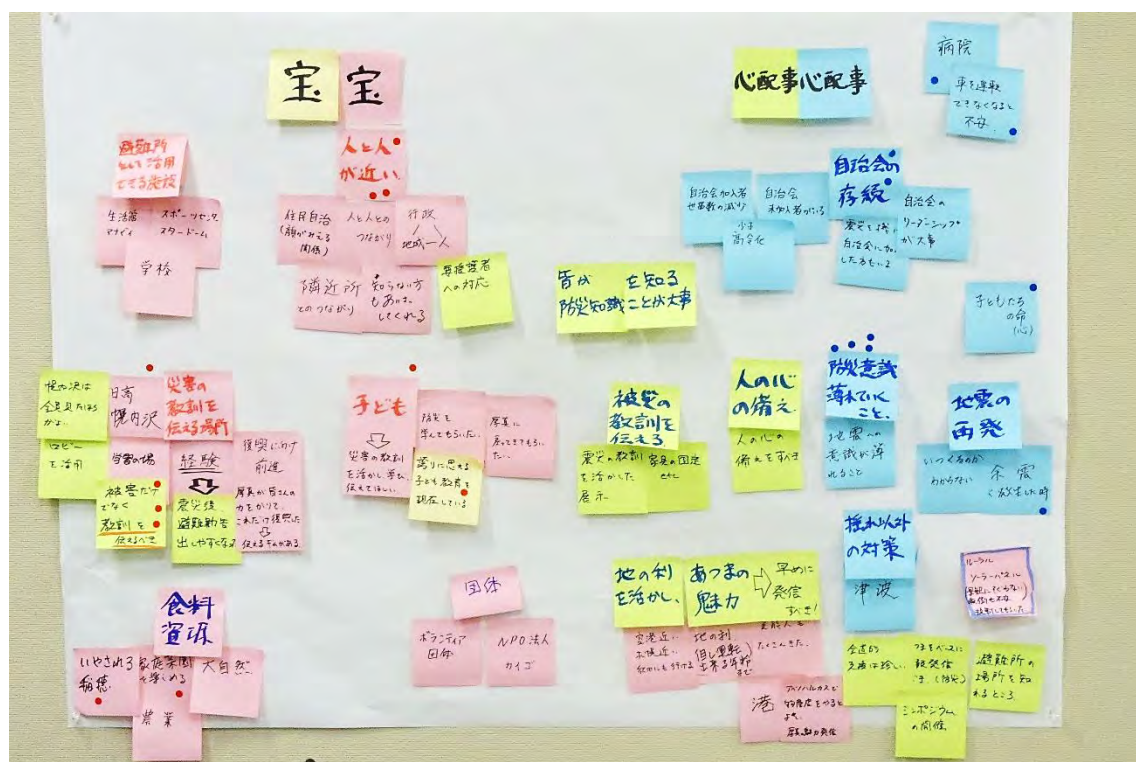
●参加者の意見

宝	
・参加できるイベント ・地元の子ども ・地元の若者 ・子どもの自主的なボランティア活動 ・町内の人々の意識	・町外の人を受け入れている気持ちが出てきている気がする ・恩返ししなきゃと思っている ・小さくゆるやかなつながりがある ・地域のつながりはもともとある
心配ごと	
・被災格差 ・復興格差 ・大変さを共有できない ・地域の中で復興が進まない人にどう寄り添えるか？ ・地震後、地域の変化（移住/定住）が見えてきた ・ゆるやかでゆっくりと復興を進める ・これから住み続けられないのではという不安（交通の問題など） ・移住者だけの地域が孤立してしまう	・意見が言いにくい雰囲気 ・いろんな人に集ってもらうための場やコーディネーターが必要 ・イベントに参加しにくい ・空き地の利用 ソーラーパネルを作られること ・つながりたい主体が分からない ・商工会青年部と町外がどうつながれるか？ ・町外の方の考えや想いを吸い上げたいけどできない



●参加者の意見

宝	
・避難所として活用できる施設（生活館・マナビィ・スポーツセンター・スタードーム・学校） ・人と人が近い（隣近所等） ・災害の教訓を伝える場所（日高幌内沢） ・被災した経験そのもの（震災後、避難勧告を出しやすくなった） ・復興における前進	・家庭菜園を楽しめる ・大自然がある ・癒される稲穂がある ・ボランティア団体もある ・介護系の NPO 法人もある ・地の利（空港・港・札幌へのアクセス） ・全道的な支援を得た
心配ごと	
・子どもに防災を学んでもらいたい ・子どもたちに厚真に戻ってきてもらいたい ・皆が防災知識を知ることが大事 ・被災の教訓を伝える（震災の教訓を活かした展示、家具の固定など）	・人の心の備え ・防災意識が薄れていくこと ・自治会の存続 ・車を運転できなくなると不安 ・地震の再発
アイデア	
・あつまを拠点に情報発信	・避難所の場所を知れるところをつくる



テーマ：地域の魅力発信

●参加者の意見

宝	
・ 自然（山・畑・海）とつながる産業がある ・ 新鮮な農産物をお裾分けしてくれる ・ 空港・港・札幌へのアクセスが良い ・ 軽い空気と田園風景 ・ 自然 ・ 人がおおらか ・ 北海道一のサーフスポット ・ あいさつができる子どもたち	・ 英語教育に力を入れている ・ 実は国際交流の基盤がある ・ 子どもが元気 ・ 出会いが拡がらない ・ みんな忙しそう ・ 担い手が集中してしまう ・ 世代間交流が少ない
心配ごと	
・ 医療施設が不足 ・ 震災のトラウマがある ・ 18歳（15歳）で旅立つ子ども ・ 観光協会の発信 ・ 宝が点で存在していてつなげられない	・ 厚真の資源をつなぐ人と場所が必要 ・ 学校と地域の接点が少ない ・ 宝に気づいていない人に宝を伝える手段 ・ 地元の活動の発信者少ない ・ 町内への発信が出来ていない（町外ファースト）
アイディア	
・ 厚真の文化めぐり（体験）ツアー ・ 当たり前を再定義する ・ 見えないもの（宝）を見える化する ・ さくら米をPR（祈*合格 さくらまい） ・ 面白い人（良い意味で）変わっている人をピックアップ ・ 就農移住者の町外出店	・ 厚真のホームページに書き込み、シェアしてもらい品をプレゼント ・ 外国人に町をPRしてもらう ・ 移住者が町内の人に魅力を伝える ・ 「あつま人」カード ・ 「町役場人」カード



テーマ：町民参加の復興

●参加者の意見

宝	
・おはなしのびっこ（読み聞かせ） ・花フレンズ ・青年団 ・ジギスカン ・健康づくりの和 ・けん玉クラブ ・無農薬野菜づくりの和 ・景観が良い ・ほたる	・自治会のコミュニティ ・地域単位の集まり ・町の人に参加する場所（あつまりんピック、パークゴルフ大会、チャリティー演芸大会、文化祭、ランタン祭り、スターフェスタ） ・イチカラ ・まちなか交流館しゃべる ・災害エフエム
心配ごと	
・いろいろな町民グループをつなげる場所づくり ・地域のキーパーソンの人達とつながれる場づくり ・難病患者が集まれる場所がない ・防災・災害を忘れないイベント・訓練 ・誰もが人目を気にせずリラックスできる場所 ・足を運びたくなるサロン、場所 ・子どものうちからボラ活動 ・高校生のボランティア見守り隊 ・お年寄りの力を役立て ・小さな畑・花壇が作れる公住 ・これからも厚真で暮らせるのか？ ・道の駅がない ・地域のコミュニティが弱くなってきている ・自治会の存続 ・後継者不足	・厚真の農業の未来への不安 ・昔からの絆やつながりが逆に“かせ”になることも ・仮設住宅背中合わせ 何をやっているか見えない ・お金にも時間にもとらわれない何でも屋が欲しい ・外部の力とのバランス 主体性？ ・仲間づくり ・町民間の温度差 ・モチベーションの差 ・いいだしっぺは誰？どこ？ ・「あいつにやってもらうか」という指示待ち ・頑張っている人を一人にしない ・町民全員参加できるか？ ・災害のことを忘れること、忘れてしまうこと ・津波の対策が出来ていない
アイデア	
・ベンチをたくさん置いてみる ・屋台を並べておまつり ・港の活用 厚真町の物産展をする ・面白い人カードをつくる ・商品開発 ・色々なプロを活用して ・焚火飲み	・あつまの歌をつくろう ・ゼロから企画（カレー作りとか） ・誰でも飲み会 ・バンド活動 ・「哲学」を共有しよう（言葉の定義） ・本音を出せるように ・テーマのあるまちづくり

③当日の様子



グループワーク①
(4つのテーマ別に話し合い)



グループワーク①
(4つのテーマ別に話し合い)



グループワーク②
(話し合いのメンバーを変えて①の内容に意見を追加)



話し合い結果の共有
(他の班の話し合い内容を見る)



話し合い結果の共有
(共感する意見にシールを貼り付け)



振り返り
(話し合い結果を振り返り、感想を共有)

④資料

◆配布資料1・2

※その他、参考資料として「厚真町復旧・復興計画[第1期]概要版」「第1回ワークショップの実施記録」を配布した。



第2回 あつま 復興未来会議

復興・復興計画 町民ワークショップ

11月16日(土) 16:00~18:30

総合福祉センター青年室

本日の記録用として
写真・動画撮影 音声録音 をさせていただきます。ご協力をお願いいたします。

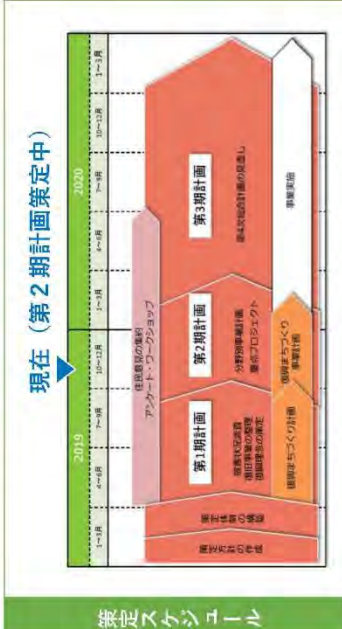
※お声への掲載のお断りを希望の方は、お近くのスタッフにお断りください。

皆さまへのおお願い

1

16:00～	主催者からのごあいさつ
16:05～	前回の振り返り・本日の進め方の説明
16:20～	チェックイン（話し合いのはじまり）
16:25～	テーマ別の話し合い①
17:25～	テーマ別の話し合い②
18:00～	全体での共有
18:15～	チェックアウト（話し合いのおわり）
18:30	閉会のごあいさつ

2



1. 復旧・復興計画の概要 ①策定スケジュール

現在（第2期計画策定中）

策定スケジュール

3



1. 復旧・復興計画の概要 ②掲載する内容

この計画には、厚真町の復旧・復興の目標や実施事業が掲載されます。

計画の内容（第1期～第3期）

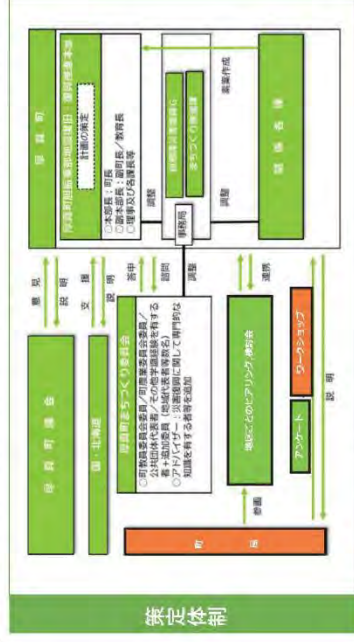
- ◆復興の考え方... どのような復興をめざすのか？
- ◆分野別の計画... 行政が行う取り組みの目標や行程など
- ◆重点プロジェクト... 復興をけん引するプロジェクト
- ◆まちづくり計画... 土地利用の方針



この計画を土台にして、国等への補助申請や、町の復旧・復興関連予算の編成などを行います。

4

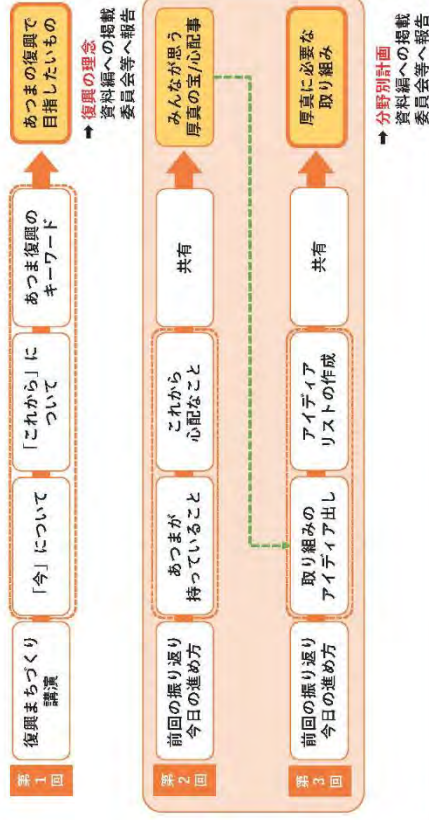
1. 復旧・復興計画の概要



未来会議でいただいた意見は、

- ①「厚真町まちづくり委員会」や「復旧・復興推進本部」に報告します。
- ②町ホームページに掲載するとともに復旧・復興計画に掲載します。
- ③事務局や区内各課に持ち帰り、復興理念や事業計画の検討に活かします。

2. あつま復興未来会議について ①全体の流れ



2. あつまふ復興未来会議について ②前回の振り返り



事例

新潟県 (中越地震)
米サンタクルーズ
(ロマ・プリエタ地震)

どんな復興が望ましいか？
を徹底的に議論した！

話し合いを通じて、
みんなで

「このまちをこうしたい」
というビジョンを
つくることが大切！

【1】復興まちづくり講演会

「中越大震災の知恵」

—自分たちでつくる、等身大の“復興”に向けて—

2. あつまふ復興未来会議について ②前回の振り返り



【2】ワークシヨップ
「2025年の厚真町の姿を考えよう！」

テ-マ

2つの未来について

みんなで
力を合わせれば
できそうな
良い未来

こうなって
ほしくない
避けたい未来

2. あつま復興未来会議について ②前回の振り返り

「あつま復興のキーワード」



2. あつま復興未来会議について ③第2回の内容



→ 復興の理念
資料編への掲載
委員会等へ報告

2. あつま復興未来会議について ③第2回の内容

4つのテーマに事務局にて分類 → 第2回はテーマ別に話し合います。

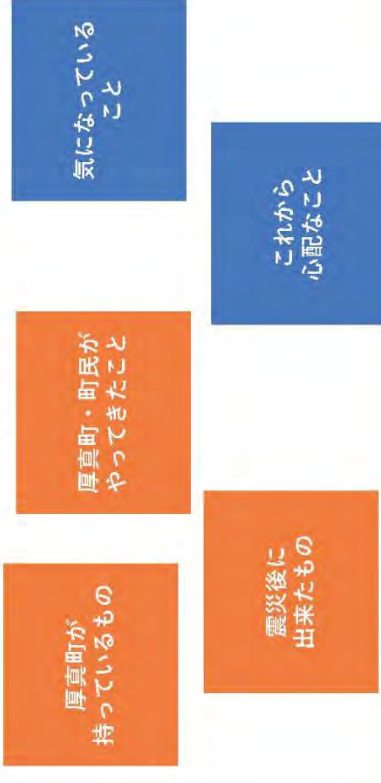


町内のつながりづくり

町民参加の復興

3. 今日のテーマ

いまあつまにあるもの・気になっていることを
持ち寄ろう



— 第3回に向けて —

第1ラウンド

どのテーマについて話し合いましたか？

第2ラウンド

覚えておきたい、あつまの「宝」や「心配ごと」は何ですか？

【次回までに出来る範囲で考えましょう！】
あつまにどんな取り組みがあるといいでしょうか？

厚狭町・復興計画関係者ワークショップ 『第3回 あつま復興未来会議』アンケート

※頂いたご意見は、今後のプログラム改善の参考とさせていただきます。ご協力をお願い致します。

●以下の項目について、該当するもの1つに○印をつけて下さい。

問1. 本日のワークショップは全体として満足できるものでしたか。

1. とても満足 2. まあまあ満足 3. ぶつう 4. やや不満 5. 不満
(その理由：)

問2. 今回、ご自身の中で気づいたことや発見したことは何ですか。

問3. 他の参加者の意見などで、特に印象に残ったことがあれば教えてください。

問4. 本日の企画・運営について、良かった点や、気づいた点があれば教えてください。

問5. その他、ご意見やかなって話し合いたいテーマ、ご要望などご自由にお書きください。

⑤参加者へのアンケート結果（回収数：13票）

■問1 ワークショップについて 満足できるものだったか

回答	回答数	割合	理由
とても満足	7	53.8%	・ 思い、考えが話すことができるものとなっている ・ 他の人の意見が聞けて参考になった。 ・ 地域のキーパーソンになる方々と話げできた
やや満足	6	46.2%	・ 前回はもしたが、話し合う時間がもう少しあったら良かったと思ひました。 ・ 参加人数… ・ 途中参加ですみませんでした！
ふつう	0	0.0%	-
やや不満	0	0.0%	-
不満	0	0.0%	-
未回答	0	0.0%	-

■自身の中で気づいたことや発見したこと

・「みんないろいろなことを思っている、みんな考えているんだなあ」
・ すごく頼もしく、心強いなと感じました。"
・ 普段の生活の中では、日々の仕事や雑事に追われて、今日のテーマで話し合った内容をゆっくり考えることはないのですが、皆さんとお話しているうちにいろいろなことを思い出したり、新たな目線や気づきがあたりして、勉強になるなあ気づかれます。
・ 4つのテーマに分かれていましたが、共通するワードが複数あったのが驚きでした。"
・ 参加されている方の背景、参加されている方との新たなつながり
・ 直接経験していない自分が厚真町が経験したことをわづかですが知る機会となったこと、視野を広げ考えることができました。
・ 気になっている事や思っている事が似ている
・ 年齢もさまざまに互いに思いを伝え、理解もし、勉強になりました
・ ひとりではないのだと少し思える様になった！
・ 厚真町民の様々な声を聞くことができました。
・ 防災教育＝地震の経験の重要性、復興の情報発信も必要だと思った。

■良かった点や、他の参加者の意見などで特に印象に残ったこと

・ 差（どうこの差が埋まていくのかな？）。
・ 同時多発ハッピーはないと再確認。立場によってHAPPYのタイミングはちがう。
・ 町内に昔から住んでいる人よりも、移住してきた人のほうが、厚真の良いところ、ステキなところをたくさん知っている（気づいている）ことが印象に残りました。（もともといる人は、それが「当たり前」なので普通だと思っているせいだと思いますが…）「厚真は良いところ」と思っている人（移住者）がたくさんいて嬉しかったです。
・ ゆるやかな復興
・ ボランティア活動は、小・中・高生のうちからやると良いのではないか。
・ 「町民全員が防災知識を身に付けることが大事！！」という言葉が非常に印象的でした。（ハードだけに頼らない）
・ 話しやすい
・ 町民カード
・ 皆さん、一人一人の話をきちんと聞いてくれて良かった

・ 町内のつながりづくりの班に入って、とても良かった！
・ 前向きな意見が出て、元気をもらえました。
・ 問2に同じ（防災教育＝地震の経験の重要性、復興の情報発信も必要だと思った。）
・ ゆっくりの視点
・ みなさん、ワークショップの参加が上手でした。建設的な話ができそうです。

■企画・運営について、良かった点やきづいた点

・ みなさんいつもありがとうございます！
・ 最初の宮崎さんの説明の際に、かわいいイラスト入りの説明書きが出てきて和みました。そしてわかりやすかったです。また楽しみにしています♪（でもプレッシャーになりませんように；）
・ 安心して話せた、聞けた
・ 非常に話しやすい雰囲気だったので、とても楽しかったです！！
・ 運営は素晴らしい出来でしたよ！
・ なごやかさがあって良かったです。
・ 楽しかったのでOK
・ とても話しやすい雰囲気が保たれていました。ありがとうございます。

■その他、意見や話し合いたいテーマ、要望

・ ただただ話せたらいいです。
・ こんな場がすごく嬉しいです😊
・ いつも、準備等大変お疲れ様です。
・ どう進んでいくのがベストなのか、ベターなのか、“これ！”という正解はないのかもしれませんが（そして、全員にとってベストということも残念ながらないのかもしれませんが）、町民の皆さんが少しでも楽しく安心して暮らしていける町に、復興計画になるといいなと思います。私も微力ですががんばります。ご無理なさらないでくださいね～。
・ 小学、中学、高校、Dサービスでも話してほしい。
・ 良かった！
・ 3回目頑張ってください。

3) 第3回の開催内容

①開催概要

厚真町復旧・復興計画町民ワークショップ 「第2回 あつま復興未来会議」

日 時 : 2019年11月30日(土) 16:00 ~ 18:30

場 所 : 総合ケアセンターゆくり 介護学習室

参加者数 : 16名

1. あいさつ

- ・主催者である厚真町まちづくり推進課より挨拶を申し上げました。

2. オリエンテーション

- ・復旧・復興計画の策定概要や、会議の趣旨を説明しました。

3. テーマ別ワークショップ

- ・第2回と同様に、4つのテーマに分かれてグループワークを実施しました。

- ・各班のテーマ

町内のつながりづくり／災害につよいまち・ひとづくり／地域の魅力発信／町民参加の復興

～ 話し合いのテーマ ～

これからのあつまに必要な取り組みは何か？

4. ゲストからのコメント

●定池祐季氏（厚真町防災アドバイザー）より

改めて、つながりが求められていることを感じた。つながりのあり方、つながるための方法、つながりの範囲（町内/町外など）や展開の仕方について、多岐に渡る意見交換があった。

「すでに動いています」「これから動きます」という方もいらっしゃる、その一つひとつの試みがこれからどのようにつながっていくのか、これからも伴走したい。

●上村靖司氏（長岡技術科学大学・第1回復興未来会議講師）より

復興とは何か？良い復興とは？というテーマについて、私は、「復興」と「健康」にアナロジー（類似性）があると思っている。病気から治癒していく時は、「罹病を機にタバコをやめる」など、病気になる前の既往症がその後の課題になる場合があり、これはもともとある社会課題に向き合いながら復興を考えていくことと似ている。今日も、まちという生命体の健康を取り戻すために多岐に渡る議論が行われた。厚真のことがみんな好きだ、ということを感じたワークショップだった。

5. 閉会

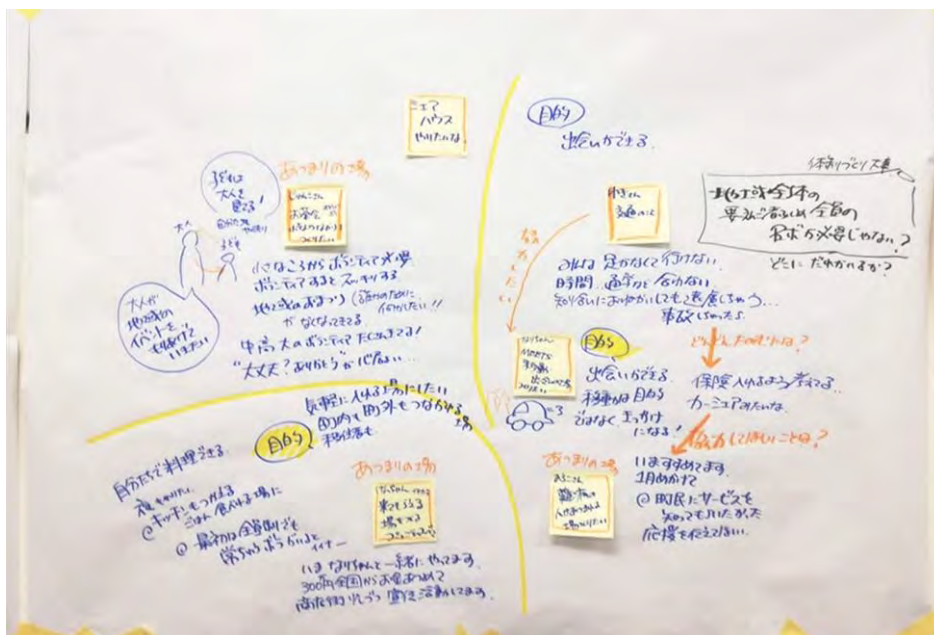
②検討結果

※参加者の意見については、当日参加者に付箋で記入頂いた原文のままを基本に、一部語尾等を補足して掲載しています。

テーマ：町内のつながりづくり

●話し合いの概要

- ・第2回に話題になった交通の問題や、つながりの場づくりについて話し合いました。
- ・班には、このテーマについて不安を持っている人、場を作りたいと考えている人、すでに町民主体の活動を始めている人がおり、どんな取り組みが出来るかについて具体的な意見交換が出来、2つのアイデアが出ました。



●アイデア

タイトル	概要	主体
小さなあつまる場所からはじめる	お茶会、ボランティア活動、地域のお祭り、コミュニティスペースの活用、難病を抱える人たちが集まれる場など、もともとあった子どもから大人までが参加するイベントを続けたり、さらに盛り上げる取り組み。	協働
生活の足からうまれる新しい出会い	交流を生み出す新しい交通の仕組みをつくる。登録制のドライバーが、一緒にドライブに行くような感覚で、車が運転できない町民を目的地まで乗せる。出会いをつくってまちのつながりを活性化させる。	協働

テーマ：災害につよいまち・ひとづくり

●話し合いの概要

- ・第2回に話題になった、被災体験や教訓の伝承について話し合いました。
- ・「どんなことを伝えたいか」、「災害につよい“まち”や“ひと”がどんなものか」、「どのように伝えるのが良いか」を議論し、3つのアイデアが出ました。



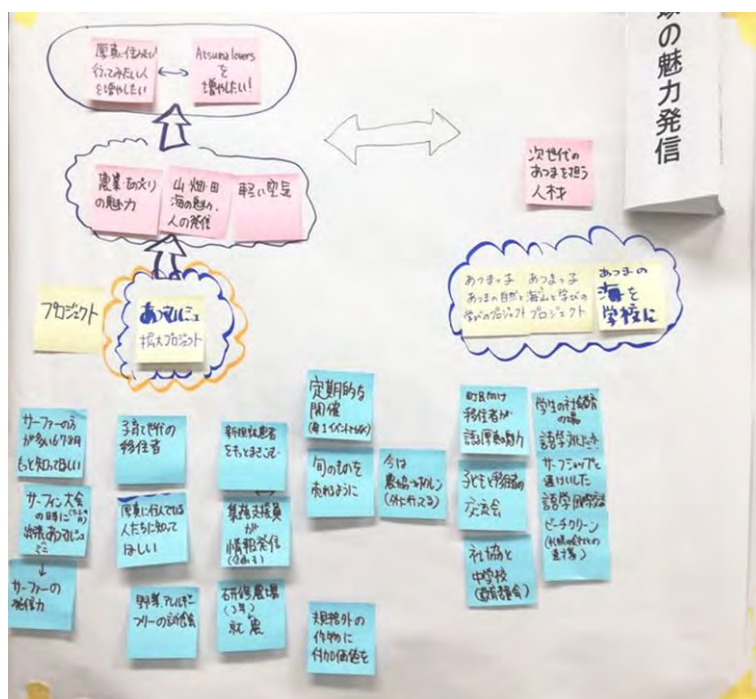
●アイデア

タイトル	概要	主体
災害から得た教訓を伝える会	災害の種類に応じた備蓄品や、家具の固定、寝室の安全確保など身の安全を守る方法について、モデルルームなどを設置し教訓を伝える取り組み。災害につよい人づくりを目指す。	協働
家族・近所会議 Day	1～3か月に一度、安全対策を考える日をつくる。年に一度程度、地区ごとにも話し合う。日々のお茶会などのコミュニケーションを大事にしながら、自身の安全確保・近所の安全確保を考え、備える。	町民
「つたえる」「つなげる」プロジェクト	シンポジウム、町内会、井戸端会議、家族会議など、時・場・人に合わせて教訓を伝える取り組みを実施する。地震だけではなく、防災全般に対して高い意識を持ったまちや、日頃から顔の見えるコミュニティづくりを目指す。	協働

テーマ：地域の魅力発信

●話し合いの概要

- ・第2回に町の宝として意見が出た「自然」「空気」などの魅力を活かして、「厚真町に住みたい人や ATSUMA LOVERS を増やす」・「次世代の厚真を担う人材を育てる」ための取り組みについて話し合いました。
- ・取り組みに際しては、サーフィン大会や町内にいるたくさんの移住者など、すでにある資源を活かすことや、町民に町の魅力を知ってもらうことなどが重要な視点として意見され、2つのアイディアが出ました。



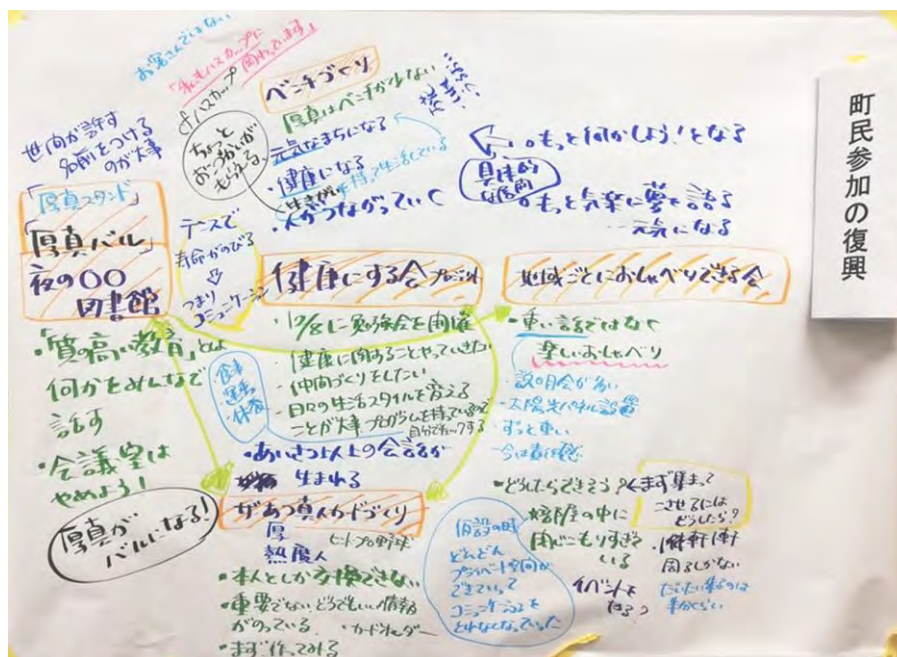
●アイディア

タイトル	概要	主体
あつまルシェ応援プロジェクト	サーフィンの大会とミニあつまルシェのコラボレーションや、あつまルシェ出店者の増加、規格外の農作物を活用して作ったものの試食会などの取り組みを通じて、月1回のプチあつまルシェを開催する。厚真の魅力を内外に発信することで、ATSUMA LOVERS を増やし、訪れる人や住んでくれる人を増やす。	協働
あつまっ子 海と山と学びのプロジェクト	まちの魅力を知る交流の機会、海を起点とした語学・文化・国際交流、ビーチクリーン活動等を通じた学び、自然学校などの取り組みを通じて、次世代のあつまを担う人材を育てる。	協働

テーマ：町民参加の復興

●話し合いの概要

- ・第2回にアイディアが出された「ベンチづくり」をはじめ、町民間の交流の機会を増やしたり、健康づくりを進めるために、町民参加/町民主体で出来る取り組みについて、どんな内容が良いか意見交換しました。
- ・挨拶以上の会話が出来たり、楽しく気楽に夢を語れたり、人がつながり「何かやろう！」という意見が出るような取り組みがあることが重要な視点として意見され、5つのアイディアが出ました。



●アイディア

タイトル	概要	主体
厚真を健康にする会	健康マイレージを活用して生活改善したり、みんながハスカップに関わったりすることを通じて、町民が生きがいを持てる生活を送り健康になること、元気なまちをつくることを目指す。	協働
あつま人カード	町民一人一人がプロフィールを書いたカードを持ち、交換し合うことで、あいさつ以上の会話をする回数を増やすことを目指す。	協働
ベンチでつくるパブリック	町民が自分たちでベンチを作り、置く。厚真じゅうの色々なところに手軽なコミュニティを作る。	町民
厚真バル at night	色々な人が世代や立場を越えて言葉の定義を掘り下げながら哲学を共有する。集まって話す場をつくる。	町民
地域ごとにおしゃべりできる会	あつま人カード、ベンチでつくるパブリック、厚真バルなどの取り組みを通じて、地域ごとにおしゃべりできる会をつくる。	協働

③提案されたアイデア

① 小さなあつま場所がはじめる

この取り組みによって実現させたい未来
もともとあった3店舗へ大人が参加する
イベントをつぎていく。もっと利用してほしい。
小さなあつま場所活動に参画することで大人になっても遊びたい。

取り組み主体
町民 協働 行政

方法や手段のアイデア
・お茶会、ボウリング活動
・コミュニティスペース、地球のあつま
・難病の人のあつま場所
・料理がなる、お花がのびる集まりなどがある場所、少ない人数で。

私たちが考えました！ ▶ Ukiyoh, Ikiyoh, Kikyoh, Gikyoh, Nikyoh

① 生活の足がうしろ 新しい出会い

この取り組みによって実現させたい未来
出会いや交流のつながりを
強化させる
・小さなあつま日本初！

取り組み主体
町民 協働 行政

方法や手段のアイデア
・電話でもドライバー（管理員）に来てもらう。
・タクシーでは交流のため、一緒にタクシーに行こうな感覚！
・米屋は学生相手（検討中）ボウリングはいい。
・ドライバーは有料、2人-1人、2人-1人。

私たちが考えました！ ▶ Ukiyoh, Gikyoh, Kikyoh, Ikiyoh, Nikyoh

災害から得た教訓を伝える会

この取り組みによって実現させたい未来
災害に強い人づくり

取り組み主体
町民 協働 行政

方法や手段のアイデア
・備えるもの（懐中電灯）（防寒）
・身の安全を守る方法（家具の固定、寝室に家財を置かない）
→ 皆さんに伝える（展示（モデルルーム））

私たちが考えました！ ▶

家族・近所会議 Day

この取り組みによって実現させたい未来
まずは身の安全確保
そして近所の安全確保

取り組み主体
町民 協働 行政

方法や手段のアイデア
・3ヶ月・1ヶ月に1度 安全対策会議
・年に1度 地区でも話し合
・このあつま場所でも
月々お茶会や大団！！

私たちが考えました！ ▶

"つたえろ" "つなげろ" プロジェクト

この取り組みによって実現させたい未来
・地域の歴史や文化を若い世代に伝える
・白子から祖の歴史を伝える

取り組み主体
町民 協働 行政

方法や手段のアイデア
・シンポジウム > 町内会 > 学校会
・学校のバレット、おはあからまへ
・町民でも歴史は知れ、場所、人に合わせたヒストリーを
① 行（継続的にPDCA）
② コミュニティ、ワークショップ

私たちが考えました！ ▶

あつまっ子 海と山と学びのプロジェクト

この取り組みによって実現させたい未来
次世代のあつまを担う
人材育成
カムバック！あつまっ子！！

取り組み主体
町民 協働 行政

方法や手段のアイデア
① まちの魅力（はまなま）を知る交流の機会（初住者、起業家との交流）
② 海を起点とした語学・文化・国際交流（社会教育の場）
③ ビーチクリーン活動等を通じた学び（海やあつまを学ぶ環境、自然、人との交流から学ぶ）
④ 自然学校（山・森での学び、NPO等とのコラボ）

私たちが考えました！ ▶

あつまルツェ応援プロジェクト

この取り組みによって実現させたい未来
山・海・人・自然といった
厚手の魅力の内・外に発信活動
事でAtsuma loversを増やし、訪れる
人々が増える。

取り組み主体
町民 協働 行政

方法や手段のアイデア
① ササンの大会時に：シニアあつまルツェを推進
→ ササンの大会、観光協会、新規就業者、
・観光協会、新規就業者、移住した
・移住者、外部交流ボランティア、地域おこし
・観光協会、新規就業者、NPO。
② あつまルツェ出店者を増やす
③ 規模外の集客も活用して作中の試食会
とカフェ企画（アロマティックのバス、濃明等）
→ 地域おこし協力隊、食改協、社協
・観光協会。
④ ①、②、③の取り組みから、1/月のあつまルツェを開催
→ 応援団結成！

私たちが考えました！ ▶

タイトル

写真と健康にする会

この取り組みによって実現させたい未来

生きがいがある生活
元気な町になる
健康になる

取り組み主体

町民 協働 行政

「おもてなし」に変わっています

方法や手段のアイデア

- ・おんながバスケやフットボールに慣れる
- ・お小遣いがもらえる
- ・健康プログラムに添った生活改善する。(グループ)

私たちが考えました！

タイトル

(例) あつまれカード

この取り組みによって実現させたい未来

あいこみ会話を
お回数を増やす

取り組み全体

市民 協会 行政

会話 予算

以下、各手段のアイデア

カードをもち
金をつるぎで
プレイのフナシタ
田んぼの夕景

名前
氏名
年齢

案は○○です

私たちが考えました！

タイトル

ベン・4とるばつとく

この取り組みによって実現させたい未来

厚真中のいっしょなびこ
コミュニケーション
あそび

取り組み主体

町長 協働 行政

方法や手段のアイデア

ベン・4とるばつとく(自分たちで)

ベン・4とあそび 町民参加の復興

私たちが考えました！ ▶

(仮)厚真バレルat night

タイトル

この数り組みによって実現させたい未来

いこうなんが世代と女
を越えて(希望)の共有

取組組み主体

方法や手段のアイデア

集めて話す場をつくる
(言葉の定義と掘り下げる)
町民参加の復興

私たちが考えました！ ▶

④当日の様子



グループワークの様子
(第2回の振り返り)



グループワークの様子
(取り組み内容について意見交換)



グループワークの様子
(取り組み内容について意見交換)



グループワークの様子
(アイデアをシートにまとめ)



話し合い結果の共有
(アイデアを発表)

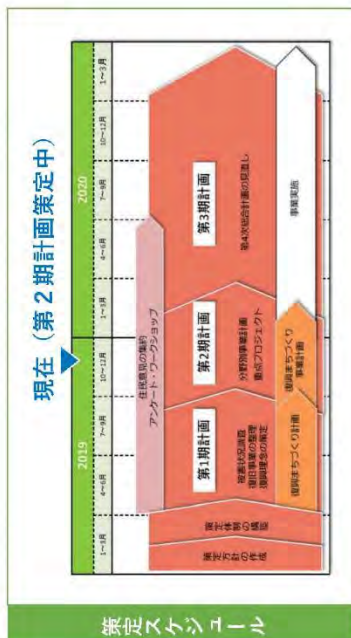


交流会
(感想やこれからやりたいことを伝え合う)

⑤資料

◆配布資料 1

1. 復旧・復興計画の概要 ①策定スケジュール



- ◆11/1 第1期計画 発行
- ◆11/8 広報折り込みにて「第1期計画（概要版）」を配布

3

1. 復旧・復興計画の概要 ②計画の基本方針



基本方針をもとに、町が実施する取り組みの目標や行程をとりまとめています。

4



本日の記録用として
写真・動画撮影 音声録音 をさせていただきます。ご協力をお願いいたします。
※中継への開通のお断りを希望の方は、お近くのスタッフにお声掛けください。

皆さまへのお願い

1

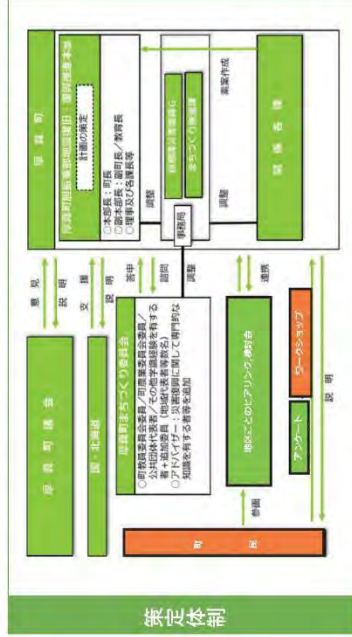
本日の流れ



16:00～	主催者からのごあいさつ
16:05～	前回までの振り返り・本日の進め方の説明
16:20～	チェックイン（話し合いのはじまり）
16:25～	班ごとに話し合い
18:00～	全体での共有
18:15～	伴走役からひとこと
18:30～	参加者交流会（19:30頃まで）

2

1. 復旧・復興計画の概要



未来会議でいただいた意見は、

- ①「厚真町まちづくり委員会」や「復旧・復興推進本部」に報告します。
- ②町ホームページに掲載するとともに復旧・復興計画に掲載します。
- ③事務局や庁内各課に持ち帰り、復興理念や事業計画の検討に活かします。

2. あつま復興未来会議について ①第1回の振り返り



【1】復興まちづくり講演会
「中越大震災の知恵」

—自分たちでつくる、等身大の“復興”に向けて—

事例
新潟県（中越地震）
米サンタクルーズ
（ロマ・プリエタ地震）

どんな復興が望ましいか？
を徹底的に議論した！

話し合いを通じて、
みんなで
「このまちをこうしたい」
というビジョンを
つくるのが大切！

2. あつまふ復興未来会議について ①第1回の振り返り



【2】ワークシヨップ
「2025年の厚真町の姿を考えよう！」

テ-マ

2つの未来について

みんな
力を合わせれば
できそうな
良い未来

こうなって
ほしくない
・
避けたい未来

2. あつま復興未来会議について



町内のつながりづくり

町民参加の復興

2. あつま復興未来会議について ②第2回の振り返り

「○○○ (班テーマ)」に「一役買いそうなの宝
「○○○ (班テーマ)」に「配する心配」とは何か？

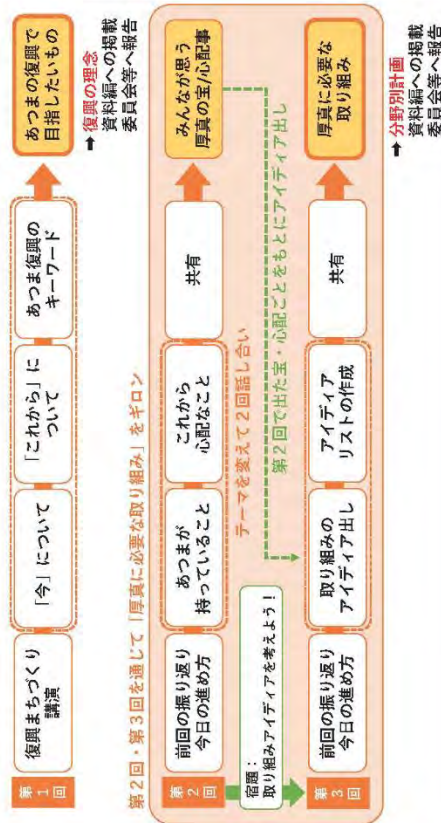


3. 今日のテーマ

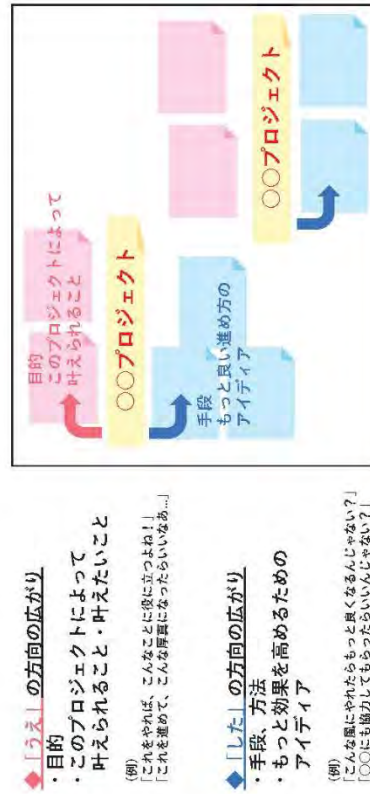
これからの厚真に
必要な取り組みは何か？



2. あつまふ復興未来会議について



「宿題」で考えてきたことを持ち寄ったり
前回話題になったことを思い出したりしながら、
アイディアを出したり、整理したり、膨らませたりしよう



厚岸町・復興計画関係者ワークショップ
『第3回 あつま復興未来会議』アンケート

※頂いたご意見は、今後のプログラム改善の参考とさせていただきます。ご協力をお願い致します。

●以下の項目について、該当するもの1つに○印をつけて下さい。

問1. 本日のワークショップは全体として満足できるものでしたか。

- | 1. とても満足 | 2. まあまあ満足 | 3. どちらでもない | 4. やや不満 | 5. 不満 |
|----------|-----------|------------|---------|-------|
| | | | | |

（その理由： ）

問2. 今回、ご自身の中で気づいたことや発見したことは何ですか。

問3. 他の参加者の意見などで、特に印象に残ったことがあるあれば教えてください。

問4. 本日の企画・運営について、良かった点や、気づいた点があれば教えてください。

問5. その他、ご意見やみんなで話し合いたいテーマ、ご要望などご自由にお書きください。

⑤参加者へのアンケート結果（回収数：3票）

■問1 ワークショップについて 満足できるものだったか

回答	回答数	割合	理由
とても満足	3	100.0%	-
やや満足	0	0.0%	-
ふつう	0	0.0%	-
やや不満	0	0.0%	-
不満	0	0.0%	-
未回答	0	0.0%	-

■自身の中で気づいたことや発見したこと

- ・町内のつながりづくり輪の中で今回・前回と、とても良い話が出来て、良い方たちと逢えてとてもうれしかった。
- ・前向きな行政の方々、町民の方々の熱気があって良かったです。
- ・なかなか、行政的視点からシフトできない自分

■良かった点や、他の参加者の意見などで特に印象に残ったこと

- ・交通の面で一生懸命頑張って下さる若者がいらっしゃる事に一安心する。
- ・困りごととはみんな同じで、必要としている人達の顔が見えて良かったです。
- ・地震のときに体がういた。実体験は強く印象に残る。

■企画・運営について、良かった点やきづいた点

- ・これでこの会を終わらせないでほしい。
- ・もう少し住民の方が多いともっとよかった。

■その他、意見や話したいテーマ、要望

- ・何をするにも、交通が大切。本気で考えてほしい！
- ・時間がないのでやむを得ないが、多くの住民の意見が集められるとりくみができると、もっともっと良くなると思います。